

## 世田谷村日記

石山修武

六月六日

昨日は菜園の世話ができなかった。残念。

十二時前研究室。久し振りの定例ミーティング。李祖原来室。北京M社Pに関して打合わせ。北京より連絡その他。いよいよ火中である。古市徹雄氏に来ていただき、中国の将来に関して語り合う会を設けるセツティング。延々と李祖原と議論。李との議論は常に中国人社会の文化、哲学の話が中心になるのが私には心地よい。ビジネスだけだったら我々の附合いは四半世紀も続かなかった。十八時過新大久保駅前近江屋で李祖原他と会食、打合わせ。北京Pの話は中枢のみ。中心は常にシンブルである。アジアというよりもオリエンタル・スピリッツの対ヨーロッパへの戦略について様々に話す。夏のパウハウス大学長ツインマンとセオリースクールNチャイナ計画、及びJ・グライターのスタジオオGインターナショナル構想等。久し振りに李とよい議論をした。二十一時過迄。途中、近江屋に馬場昭道より電話入り、日本仏教界での李祖原のデビューのお膳立ても出来た。中国人仏教と日本人仏教がどれ程に異なり、どれ程に同じなのか、知る事は興味ある。故佐藤健の遺志かな、コレワ。二十二時過世田谷村に戻る。

六月七日

十時前研究室。学部レクチャー準備。ホームページの様子を見るに、世田谷村日記だけ読んで他は通り過ぎている読者が多いようだ。せめてカバーコラムは併読してもらいたいのだが。ネット

のスピードに併走しようと、いささか力を入れているので。

十時四〇分レクチャー。メガシティーサンパウロ市の現実。ブラジルの建築学生の問題意識について参考迄に。十二時過迄。十三時李祖原と昼食後、十四時半竹橋の毎日新聞社へ。社会部記者澤氏の李祖原取材。十六時了。パレスホテルロビーで十七時山下設計橋本氏と会い、六本木で会食。後、世田谷村に戻る。